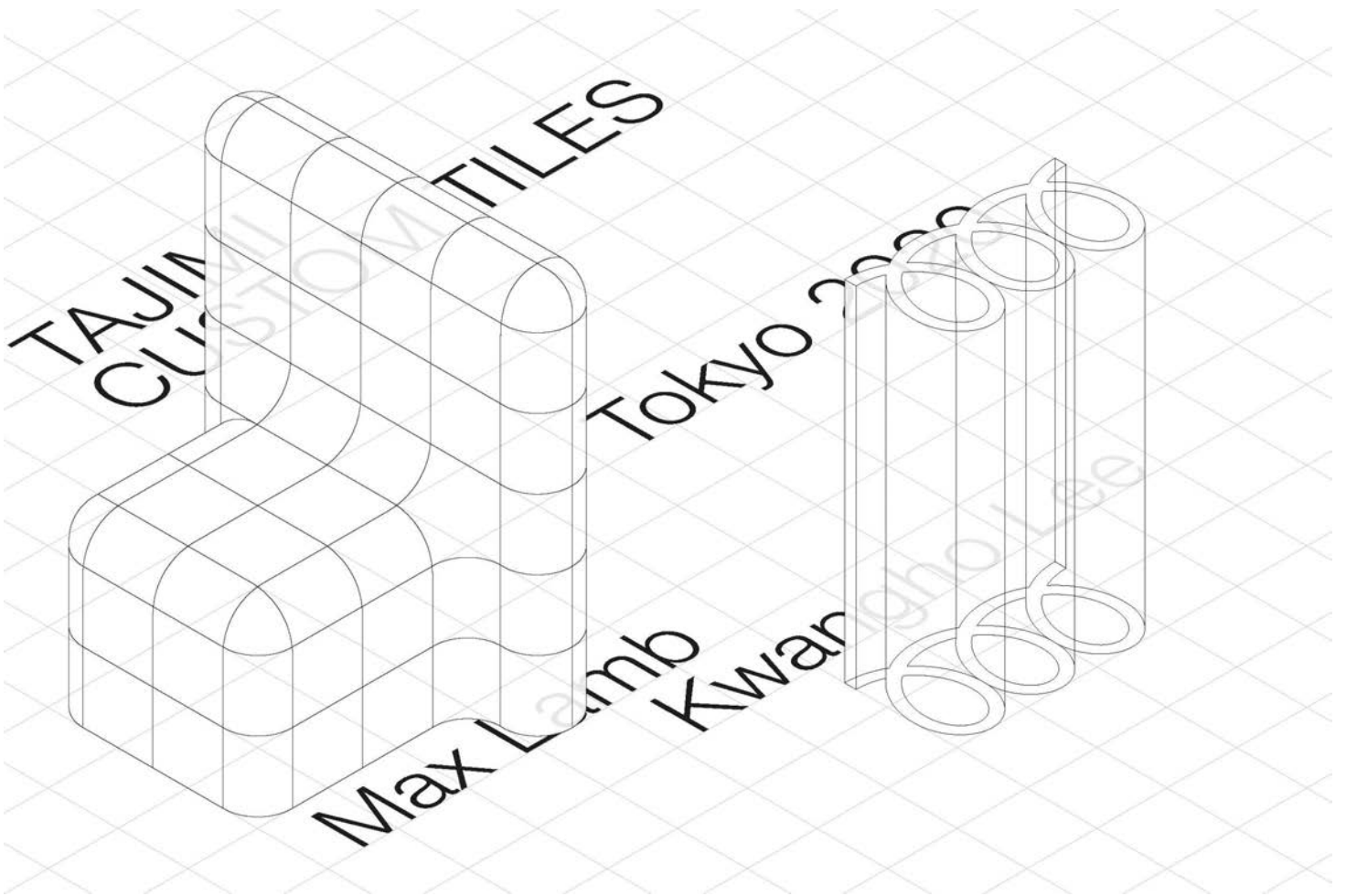




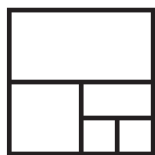
TAJIMI  
CUSTOM  
TILES

PRESS RELEASE vol.3  
2020 September

## TAJIMI CUSTOM TILES TOKYO 2020 Installations by Max Lamb and Kwangho Lee



[tajimicustomtiles.jp](http://tajimicustomtiles.jp)



TAJIMI  
CUSTOM  
TILES

TAJIMI CUSTOM TILES は、日本の一大タイル産地の多治見で立ち上がった新しいブランドです。2020年10月、ブランドのグローバルローンチとして、世界的に活躍するデザイナー、マックス・ラム（イギリス）とイ・カンホ（韓国）を迎え、初めてのインスタレーションを東京で開催します。

1300年にわたり続く焼き物の伝統と歴史の中で、多治見には数々の技が生まれ継承され、現在の多治見の最大の特徴である多様性のあるものづくりを実現しています。そしてこの多様性が導き出したのが「ビスポーク・タイル」という発想。丁寧な対話、最高の素材、最高の技術で仕立てる洋服づくりにならって、TAJIMI CUSTOM TILES はきめ細やかなコミュニケーションと多治見の技を集結して、世界中の建築家やデザイナーの方に向け、オリジナルのサイズ、形、色、質感のフルカスタムタイルを制作します。

今回の展示では、世界的に活躍するデザイナー、マックス・ラム（イギリス）とイ・カンホ（韓国）による実験的なインスタレーション作品を展示します。2018年、マックスとカンホは多治見に滞在し、素材からリサーチを行い、いくつものメーカーを訪れそれぞれの特性を理解しました。既存の枠をはるかに超えて生まれた新しいタイルのアイデアを、多治見の職人たちは、彼らにしかできない技と想像力で実現しました。TAJIMI CUSTOM TILES が世界へ発信する、1300年分の知恵と未来に向けた挑戦をぜひご覧ください。

#### 【エキシビション概要】

会期：2020年10月31日（土） - 11月3日（火）

OPEN：10:00 - 20:00（最終日は16:00まで）

会場：Mahal 東京都渋谷区神宮前 5-12-1

ハッピーアワー：2020年10月31日（土） - 11月2日（月）18:00 - 20:00

\*プレスデー：2020年10月30日（金）15:00 - 20:00（予約制）



## WORKING TILE by Max Lamb

多治見が持つ独自のタイル製造システムをベースに、TAJIMI CUSTOM TILES が実現すべきものとは何だろうか。この問いを繰り返すなかで、マックス・ラムは、多様な形状をした3Dのタイルの製作にたどり着きました。立体的なタイルをパズルのように組み合わせることで生まれる、チェア、ローテーブル、ベンチ、フラワーベース、パーティションといった、さまざまなバリエーションのアイテム。土の魅力を最大限に引き出すべく素材を選び抜き、同時に日本の伝統的なタイルに見られる静かで深い奥行きを持つ色味を現代に蘇らせようと、特殊な釉薬を使用しています。ボリュームのある立体的な形は、鑄込成形により実現しています。左記作品ほか、計11点展示をいたします。



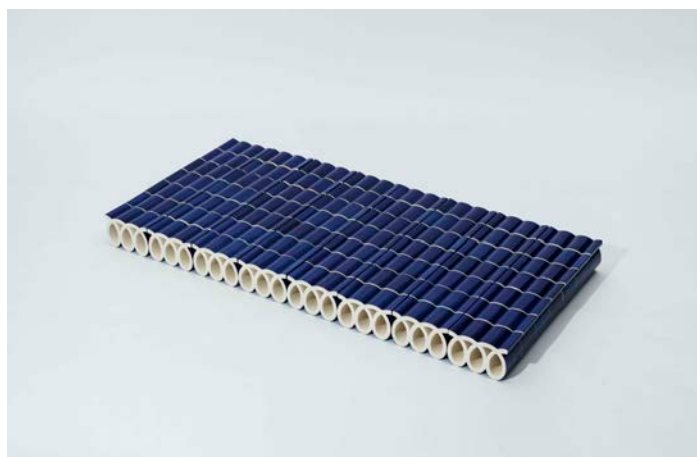
Max Lamb (マックス・ラム)

1980年イギリス生まれ。田園地帯が広がるコーンウォールで、自然と戯れながら好奇心旺盛な少年時代を過ごしたマックス・ラム。ノーサン・ブリア大学で立体デザインを専攻後、ロンドンのロイヤル・カレッジ・オブ・アートに進学し、プロダクトデザインを学んでいます。2008年独立。デザイナーとして活躍する一方で、素材に対する確かな知識と、卓越した造形力とものづくりの技を生かし、自らの手で数々のプロダクトを作り上げています。ごく一般的なものと新素材を組み合わせたり、実験的な試みのなかから合理的な解決策を見出すなど、実直さと知的な感覚を併せ持っているのも、彼の特徴と言えるでしょう。Peter Walker Award for Innovation in Furniture Design (2003)、the Hettich International Design Award (2004) の受賞をきっかけに、Deadgood、Sight Unssenなどのメーカーと協業をスタート。Design Museum、Gallery FUMI (ともにロンドン)、The Johnson Trading Gallery (ニューヨーク)、the Wolfsonian Museum (マイアミ)、the Melbourne (オーストラリア) など、各地の美術館、ギャラリーで個展を開催しています。母校のロイヤル・カレッジ・オブ・アートで教鞭を執るかたわら、世界各国の企業とのコラボレーションを行なっています。maxlamb.org



## TIDE by Kwangho Lee

多治見特有の押出成形技術に着目したイ・カンホは、異なる長さの成形を可能にするループをかたどったモジュールをデザインすることにより、多様な機能を提案。モジュールは縦横の両方向に重ね合わせることができ、組み合わせ次第で壁やベンチなど、さまざまな展開が可能です。モジュールを一列に並べると手で描いたようなループ模様が連続して見え、まるでニット生地にも似た豊かな表情が現れます。「ニット」はイ・カンホにとって創作の重要なテーマでもあり、異なる素材、スケールの作品をこれまでも多く手がけています。本プロジェクトでは、初めは非常に柔らかく、製造の過程で次第に固さを増していく土の素性をデザインで表現しています。上記作品ほか、計7点展示をいたします。



### Kwangho Lee(イ・カンホ)

1981年韓国生まれ。金属工芸とデザインを学びソウルにデザインスタジオを設立。身の回りの素材でさまざまな日用品をつくっていた農業家の祖父の影響を受け、幼少期から自らの手でものを作ることに熱中。この体験が、イ・カンホのクリエイティブな思想や作風の原点とも言えます。何気ない景色に潜むかすかな事象の発見、再検証、再解釈を繰り返すなかで、素材の特性や接合方法などを見極め、そこから新しい可能性を持つ日常のデザインを見出していきます。これまでもスタイロフォーム、ポリ塩化ビニル、大理石、銅、ほうろう、鉄、陶土など、さまざまな素材に取り組んで来ました。2009年 Design Miami/Basel での審査員特別賞の受賞を皮切りに、2011年韓国政府文化部の Artist of the Year、2013年 Yaol / 韓国文化遺産協会の Young Craftsman of the Year を連続受賞。また、Commissaires (モントリオール)、Johnson Trading Gallery (ニューヨーク)、Victor Hunt (ブリュッセル)、Karena Schuessler (ベルリン)、Clear Gallery & Edition (東京)、Gallery Seomi (ソウル) で個展を開催する一方、Design Miami/Basel や Design Days Dubai などのグループ展、国際展などにも参加。作品はモントリオール美術館、サンフランシスコ近代美術館のパーマネントコレクション入りを果たしています。kwangholee.com



Blue Bottle Coffee (2020) / 香港  
設計：長坂 常 / スキーマ建築計画  
押出成形、使用面積 190m<sup>2</sup>

建築家、デザイナーが手がける空間のためのオリジナルタイルの制作が本格的に始まっており、海外のプロジェクトも進行中です。

建築家やデザイナーのアイデアに対して、釉薬、成形や焼成の仕方など多治見ならではの多様な技術、経験を生かし、丁寧なコミュニケーションで思い描くタイルを実現していきます。

オリジナルタイルの制作実績については、Tajimi Custom Tiles のウェブサイト「ポートフォリオ」のページで、随時紹介をしています。



SKINCARE LOUNGE BY ORBIS (2020) / 東京  
設計：工藤 桃子 / MMA Inc.  
押出成形、使用面積 100m<sup>2</sup>  
Photo:Takashi Kawashima



## 長い歴史と伝統に根付いた、 多様性のあるものづくり

岐阜県南部に広がる多治見市。良質の粘土鉱物を大量に含む豊かな土壌を有するこの一帯では、およそ1300年前に焼き物文化がはじまりました。その長い歴史のなかで日本を代表する陶磁器、美濃焼が誕生したことは、多治見周辺域のものづくりの可能性を大きく引き伸ばしていきます。こうした背景のもとで20世紀初頭に始まったのが「タイルづくり」でした。多治見では現在でもタイル製造が盛んに行われ、その総合生産量は全国1位。モザイクタイルに至っては国産の9割をこのエリアが占めています。しかし、多治見タイルの特徴は、何もその圧倒的な生産力だけではありません。基材のみならず、素材、成形、釉薬にいたるまで、さまざまな形態、特性のメーカーが多角的に多治見のものづくりを支えているのです。さらに、ほかのエリアではほとんど見られなくなった日本の伝統的な焼成技術、変化に飛んだ釉薬表現、それを支える設備や生産方法が残っているのも特徴と言えます。

## バラエティ豊富な製造手法で生み出される多治見のタイル

釉薬の種類や焼成方法によって、バラエティに富んだ製造手法が存在するのが多治見タイルの特徴です。手作りのような風合い、温もりと深みを感じさせる色みと質感が特徴的な多治見タイルは、まさに日本の美の象徴とも言えるでしょう。タイルの仕上がりに影響を及ぼすのが、焼成のプロセスです。通常、量産タイルは均一で、安定した仕上がりのローラーハースキルンで焼成されますが、多治見ではトンネル窯やシャトル窯を使用しま

す。内部温度を変動させながら20時間以上かけて焼成する特性が、タイルに独自で生き生きとした表情を与えるのです。に加え、酸化焼成とは対照的な還元焼成を特殊な釉薬と組み合わせることで、日本の伝統的な焼き物（陶芸）にも似た特徴的な風合いと色みを実現することができます。

## 多治見にしかできないことを、 世界に

TAJIMI CUSTOM TILESは、ダヴィッド・グレットリのクリエイティブディレクションのもと、株式会社エクシズが立ち上げたブランド。株式会社エクシズは、商社として事業展開しつつオリジナルタイルの商品開発も行ってきただけで、独自のラボ施設で試作品のプロトタイプの開発と見本焼きができる異色の企業です。自社のラボと地元メーカーのネットワークを組み合わせることで、短い納期、安定した供給、高い品質を備えた製造環境を構築しています。TAJIMI CUSTOM TILESのほか、日本古来の伝統的なタイル製造法の復活や、環境保全のことを考えたリサイクルタイルの生産などにも積極的に取り組んでいます。TAJIMI CUSTOM TILESのクリエイティブ・ディレクターを務めるダヴィッド・グレットリは、デザイナー、メーカーが持つスキルがユーザーにとっていかに活かされるべきか、またこれからの時代に必要とされるデザインの意義はなにかを冷静に見極め、的確なアドバイスとディレクションを行ってききました。本プロジェクトのほか、「KARIMOKU NEW STANDARD」「2016/」「Sumida Contemporary」など、日本の技術力を世界に向けて発表する数々のプロジェクトに携わっています。



David Glaetli (ダヴィッド・グレットリ)  
／クリエイティブ・ディレクター

1977年生まれ、スイス・チューリッヒ出身。アート、マスコミュニケーションと日本語を学び、イタリア・ミラノとスイス・ローザンヌのECALでインダストリアルデザインを学ぶ。チューリッヒでプロダクトデザインなどのプロジェクトに従事後、2008年には大阪の柳原照弘主催のデザインスタジオに参加。2013年、京都に拠点を移しGlaetli Design Directionを設立。現在は東京を拠点に、国内外のメーカーやブランドのクリエイティブディレクション、デザインコンサルティング、デザインマネジメントを行なっている。主なクライアントに、墨田区、佐賀県(2016/), カリモク家具、A-Net / Issey Miyake (zucca)、スイス大使館など。また、多摩美術大学でゲスト講師として教鞭をとる。カリモクニュースタンドと墨田区のクラフトレーベル、SUMIDA CONTEMPORARYではクリエイティブディレクターを務めている。  
[www.davidglaetli.jp](http://www.davidglaetli.jp)



株式会社エクシズ／運営

1994年、岐阜県多治見市に創業した総合タイルメーカー。「母なる大地に感謝をこめて。」をモットーに、天然素材と職人の技にこだわり、オーダーメイドのタイル制作や、タイルを中心とした建材の輸出入を行なっている。自社内に多彩なタイプのタイルサンプルを製造できるラボを併設すると同時に、多治見一帯の複数のタイルメーカーと協働し、安定した生産環境を保持。また、リサイクルタイルの生産の仕組みを開発するなど、環境の持続可能性を高めるなどの取り組みも積極的に行なっている。  
[www.x-s.jp](http://www.x-s.jp)

## PRESS CONTACT

このニュースに関するご質問、取材や掲載のご希望がございましたら、  
プレス担当までお問い合わせください。

竹形尚子 (デイリープレス)

Tel. 03-6416-3201 / 090-1531-6268 [naotakegata@dailypress.org](mailto:naotakegata@dailypress.org)